

会報

No. 2

1983.10.15 発行

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9

京都府立図書館内

TEL (075) 771-0069



私の出会った本 —座右の書—

京都府教育委員会委員長

大槻 彌 一郎

履歴書の趣味の欄には、よく「読書」と記入されているが、実際に面接等でその内容を確かめると、無難に或は安易に記入されたと思われる場合に接することが多く、多読・精読といういろいろあるにしても、何かむなししい気持になることがしばしばある。

昭和四四年西舞鶴高校勤務時代のことである。私は図らずも母校に赴任することとなり、その昔、尊敬する恩師・先輩・同輩に囲まれて学んだ感激もあって、先輩として、この学び舎に学ぶ後輩達との接触の機会に、自習時間の活用を思い立った。

当時私は遅まきながら福沢諭吉の「学問のすすめ」に傾注していたこともあって、その時代の偉人の想いを自分一人のものにするだけでなく、これからの人生を送る後輩達にも何等かの役に立てばと考えて、学校司書を勤めておられた植和田豊先生の協力をえて、岩波の文庫本を五十冊程揃え教務の理解のもと自習時間に持ち廻りで講読会を持つことにした。

その結果、生徒諸君の「読む力」、「理解する力」についての認識を新たにし、くじけずに続けることによ

り一人でも座右の書を持ち、それによって偉人の人格・思想に接する機会と見識を持った人生が送られればと願ったものである—とはいえ、今もって翁の全集を入手していないが—

西舞鶴高校は一年八か月で新設八幡高校に急転転動を命ぜられ、八幡高校では自習時間皆無の方針から図書館の図書の実に、司書の二谷絢子先生と共に限られた予算の中で四苦八苦の努力をした事等、今となればなつかしい思い出である。

最近は何れも雑誌が自動販売機と共に氾濫していて、私共は青少年健全育成の立場から大人の責任で各種団体の協力を得ながらその追放運動に取りかかっているところである。

願わくば、若い間に、多読でも精読でも良書に親しみ、尊敬する偉人に書物から接し学び得る楽しさを味わい座右の図書を持たれることをすすめたい。私自身、祖父から或は父から読まれ継がれ、若き頃、読んだスマイルズの西国立志編や黒岩涙香の訳本小説などの図書を今は再読する機会はないもの大切に座右に保管して心の安らぎを保っている。

▼第3回理事會報告▲

10月4日、府立図書館において今年度第3回理事會が開かれました。

59年度予算への要望書、文化講演會、専門委員会報告、分担金引上げ申請などについて協議しました。府教育委員会教育長など4か所への要望書の提出、分担金の引上げ申請は昨年に引続いて行なうことになりました。各専門委員会からの報告は、別掲の通りです。

文化講演會は、11月2日(木)、福知山市市民會館で、岡田純也氏(京都女子大助教授)による「子供の情操と絵本」の講演をしていただくことになりました。

また、第2回実務研修會は、12月2日(金)、舞鶴市民會館で、澤田会長を講師として、図書館の仕事をして一〜二年の方を中心とした、基礎講座と、1〜2の事例発表を予定しています。

日本図書館協会助成金については、日本図書館協会評議員と協議して、今年度中に処理することが了承されました。

なお、会報を、加盟館の職員全員に配布できるように増刷することも承認されました。



昭和57年度 図書館等施設調査を終えて ——貸出し、登録が大幅な伸び——

このほど、日本図書館協会が行った「全国図書館調査」の京都府分の結果がまとまりましたので、その概要を報告いたします。(表1参照)

この結果からいえることは、図書館サービスの要である貸出しが、大幅に増えたことです(図1参照)。特に府下市町での伸びが著しく(表2参照)、図書館が住民にとって身近な施設になってきたことを物語っています。この伸びは、南部地域の図書館に大きくみられますが、北部地域においてはいま一步というところです。

児童の利用状況を見ると、登録者が一般成人を含めた全体の51%、貸出し冊数が52%と、いずれも半数以上が児童で占められています。特に京都市では、児童の登録者は64%です。

このような貸出しの伸びは、図書館の増設や登録者の増加、リクエスト、図書館行事の実施などが要因といえます。

図書費は全体に伸び悩み、56年度を大幅に下まわりました。これは、

56年度に京都市の地域図書館が2館誕生したことによる増加があったためです。57年度は全体で約13%の減となっています。

図書館活動を担う職員数については、相変わらず専門職員(司書有資格者)の割合が少なく(表1参照)、専門職の館長も全体で三分の一であるなど、前年度に比して変わりがありません。司書職を専門職として位置づけるためにも、有資格職員を増やす努力が必要であると思われれます。

また、今回の調査では、小規模な町立図書館でも、市立図書館以上の活動をしている館があることと、京都市の図書館(中央館と各地域図書館を含めて)の活動が、全体の活動結果に大きなウエイトを占め、全国平均に近づいていることが明らかになりました。

この調査結果をみて今後の課題としては、(1)図書館未設置地域の解消、(2)北部地域での図書館活動の振興、(3)図書館設置地域での、児童を核とした利用者層の拡大、(4)専門職員の配置などがあげられます。

図2 府下公立図書館の活動状況(昭和57年度)

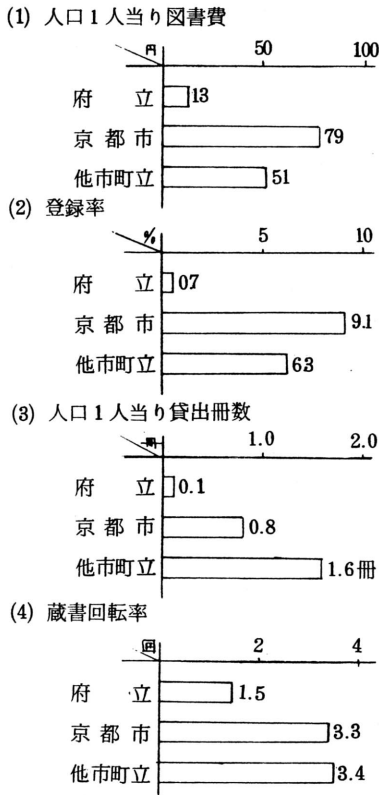


図1 府下公共図書館の活動推移

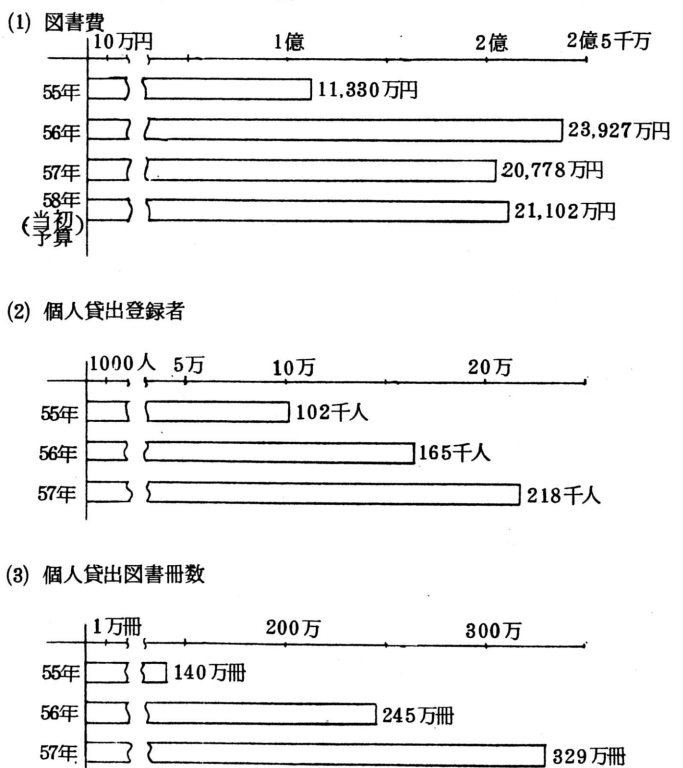


表1 昭和57年度府下公立図書館の実態と分析

設置種別	項目	奉仕人口 (千人)	職員 (人)	蔵書数 (冊)	内児童書 (冊)	受冊 (冊)	内児童書 (冊)	個人貸出登録者 (人)	内児童 (人)	貸出冊数(BMを含む) (冊)	内児童書 (冊)
府立		2,553	84 (47)	628,978	項目なし	26,396	項目なし	16,667	項目なし	280,476	項目なし
京都市		1,473	84 (29)	377,745	168,451	89,155	40,598	133,832	71,997	1,244,075	807,350
市町立		1,080	62 (30)	515,322	163,015	54,391	21,621	68,455	32,378	1,766,562	770,276
京都市及び市町立		2,553	146 (59)	893,067	331,466	143,546	62,214	201,787	104,375	3,010,637	1,577,626
合計		2,553	280 (106)	1,522,045	—	169,942	—	218,454	—	3,291,113	—
設置種別	項目	登録率 (%)	登録者 1人当り貸 出冊数(冊)	内 児童1人 当り (冊)	人口1人当 り貸出 冊数 (冊)	蔵書 回転率 (回)	図書費 (万円)	人口1人 当り図書 費 (円)	昭和58年 度図書費 (当初予算) (万円)	左の人口 1人当り 図書費 (円)	前年比図 書費の伸 び率 (%)
府立		0.7	17	項目なし	0.1	1.5	3,419	13	3,632	14	106
京都市		9.1	9	11	0.8	3.8	11,672	79	13,200	90	113
市町立		6.3	26	24	1.6	3.4	5,687	53	4,270	40	75
京都市及び市町立		7.9	15	15	1.2	3.4	17,359	68	17,470	68	101
合計		8.6	15	—	1.3	2.2	20,778	81	21,102	83	102

注1. 府立の※印は総合資料館は含まない。

注2. 職員は、専任・兼任の合計で、()内は司書(補)の有資格者数。

表 2 府下公立図書館の活動比較 (総括表)

項目 設置 年度 種別	図書館数			図書費(万円)			受入図書冊数			登録者数(人)			貸出図書冊数			
	55年	56年	57年	55年	56年	57年	55年	56年	57年	55年	56年	57年	55年	56年	57年	
府立	6	6	6	3,223	3,378	3,419	35,358	27,383	26,396	19,200	17,605	16,667	242,000	244,400	280,476	
京都市	5	7	8	2,860	14,707	11,672	84,836	102,467	89,155	18,302	74,051	133,332	305,000	991,000	1,244,075	
市町立	15	15	15	5,247	5,842	5,687	86,721	63,295	54,391	64,721	73,461	68,455	859,000	1,217,000	1,766,552	
合計	26	28	29	11,330	23,927	20,778	206,915	193,095	169,942	102,223	165,117	218,454	1,406,000	2,452,400	3,291,113	
前年比			104%													129%

※ 府立の「登録者数」「貸出図書冊数」以外は総合資料館を含む。

※ 「図書費」は、各年度の決算を示す。

にゅうす・ニュース・News

● 宇治市市民文化センター ～中央図書館～ 59年秋開設予定

宇治市では60年の町づくりをめざす総合計画にもとづき、市民の文化、芸術、社会教育の拠点として、いつでも気軽に利用できる市民文化センターの建設を計画。

55年国有林払下げによる建設用地確保から、市民の代表で構成する市民文化センター建設懇談会を設置。

中央図書館はこの計画のなかで建設することになりました。58年2月に基本設計が確定し、現在59年秋完成をめざして工事がすすまっています。

市民文化センターは折居台一丁目(太陽ヶ丘附近)の64ヘクタールに市民文化会館、歴史民俗資料館、中央公民館、中央図書館を備えた複合施設ですが、傾斜を持つ敷地の地形を効果的に利用し、各施設がそれぞれ固有の機能を発揮し、独立して利用できるように配置されています。

中央図書館は平屋建てで広さは約1,400㎡、開架室はワンフロアで一般、青少年、児童、新聞雑誌コーナーに分かれ、他にレファレンス室、対面朗読室、視聴覚室と図書館の行事や、市民の読書活動に利用できる集会室を備えています。

すべての市民が気軽に利用でき、親しめる図書館をめざして開館準備をすすめています。

(宇治市民図書館)

● 向日市立図書館 来春完成、11月オープン

向日市は47年に市制を施行した京都盆地の西南部に位置する面積8㎏で人口51,000人の市である。

市内に阪急電鉄2駅、国鉄1駅を有し、京都市近郊住宅都市として、35年頃から急激に発展したが、近年は人口の伸びも鈍化している。

現在向日市では、中央公民館および各地区公民館に図書室を設置しているが、さらに住民の文化的要求に応えるため、本市が長岡京遷都1,200年を迎えることを記念し、国と府の援助を得て市立図書館を設置することとなった。

去る7月に図書館準備室を教育委員会内に設け、4名のスタッフで事務を進めているところであり、建物の完成は59年3月末であるが、オープンは11月の予定。

建物は鉄筋コンクリート2階建てで、延べ床面積1,500㎡とし、1階は天井を吹き抜きにした明るい一般閲覧室、児童閲覧室、ブラウジングコーナー、事務室、書庫などがあり、2階には参考図書を揃えたレファレンス室、研修室、整理事務室、館長室等を設けている。

蔵書数については、1人1冊を目標に最終6万冊収蔵するが、オープン時は3万冊程度でスタートする予定である。さらに、長岡京跡の関係を主体にした郷土資料も収集し、地域の特性を生かしたものにしたいと考えている。

本市のほぼ中央に建設することと、8㎏という狭い市域でもあることから、利用者にとって身近な図書館となり、対象も現在の子供中心からもっと広く一般市民の利用も期待できると考えている。

(向日市教育委員会)

読書は

新しい

発見の旅



ナガモダイ
南加茂台公民館図書室

相楽郡加茂町加茂ニュータウンの南加茂台公民館一階に図書室がオープンしました。町で初めての図書室で、南加茂台自治会や大阪労働者住宅生活協同組合からの寄贈分一、五〇〇冊、町購入分、府立図書館からの貸出分をあわせて当初二、五〇〇冊(児童書七割)でスタートし、徐々に整備していく予定です。

*貸出 一人二冊 期間二週間

*開館日・時間 毎週土曜日 A.M.十時～P.M.四時三〇分

「―――オープン(83・8・27)―――」

宮津市立前尾記念文庫

「―――オープン(83・7・17)―――」

この記念文庫は故前尾繁三郎氏の遺志により、遺族から市に蔵書と図書建設資金が寄贈され建設されたもので、中央公民館分館としての機能を併せもち、一階が郷土資料室、二階が記念文庫となっております。文庫の利用はA.M.九時～P.M.五時、日曜・祝日が休館日となっています。

市民をはじめ多くの方に親しまれ、利用されて、地域の文化の向上に貢献するものとして期待されています。

● 研修研究委員会

研修研究委員会は、八月八日宮津市立前尾記念文庫で開かれた「北部図書館長会議」において、協議された結果、左記の方々に委員を委嘱することになりました。

九月一三日の第一回委員会では、当面の活動と実務研修会について協議しました。まず、毎年、読書週間に催している文化講演会については福知山市で、「児童文学に関する」内容で、期間中に開催することになりました。

実務研修会は、新任職員を対象に、「図書館とは何か」というテーマで、舞鶴市において一二月二日に開催する予定です。

なお、次回の実務研修会は、南部地区で開催する予定です。

また、研修で取り上げてほしいテーマ、研修会の持ち方等について御意見がありましたら、遠慮なく委員または協議会事務局までご連絡ください。

- 委員長 橋本 実 (福知山市立)
- 委員 中西俊夫 (宮津市立)
- 荻野義雄 (舞鶴市立西)
- 西村良平 (八木町中央公民館)
- 石田真弓 (亀岡市立)
- 田中義一 (峰山町立)

専門委員会 ニュース

● 相互協力委員会

相互協力は、住民が必要とする情報(資料)は必ず提供するという図書館の本質的機能を果す上で、最も重要な課題であり、しかもこれからのテーマです。このような意義をよく理解され、左記のとおり各館から自発的に委員を推薦していただき、大変心強く思っています。この委員会は、いつでも新委員の参加を歓迎しますので、推薦をお願いします。

九月八日の第一回委員会では、「相互協力委員会活動計画」(案)に基づき活動計画を協議、第三条事業第五項に「参考調査に関すること」を追加修正し決定しました。

当面の活動としては、一方では他府県の事例を勉強しながら、(1)逐次刊行物の分担保存、(2)各館での不用図書(複本、寄贈資料、廃棄本等)の交換を二本柱として推進、大学図書館、京都の出版界などとの交流も計画することになりました。

- 委員長 高木多喜男 (府立)
- 委員 村上 敏明 (京都市中央)
- 仁科 晴夫 (八幡市立)
- 城 洋子 (精華町立)
- 鎌田 政子 ()
- 中谷 昌子 (木津町立)
- 黒坂 紘一 (府立総合資料館)
- 岡田 友明 (府立)
- 森 吉治 (府立)

百万冊超える(貸出)

八幡市立八幡市民図書館

八幡市民図書館(昭和五五年一月開館)では、開館以来貸出しが九月二〇日で百万冊を超え、百万冊の本を借りた主婦に記念品が贈られました。市民一人当たりの年間館外貸出冊数は、五、三四冊(五十七年度)と近畿ではトップを占めています。

図書館等職員の実務研修

(製本技術講習)に参加して

。私自身、本をいつも身近に感じておりながら、製本というものになかなか触れることができなかったが、今回の講習で、自分の手で一つの形、本”を造り上げていく作業は、とても興味深く、形になっていくうれしさは格別でした。そして楽しみながら製本というものを知らることができました。(京都市左京図書館 静 洋子)

。和知町図書室は、開設してまだ一年たらずで、これから手作り絵本の作製等、いろいろな活動を行っていることと計画していた時でもあり、大変参考になり、今後の図書室活動に十分に役立てて行きたいと思っています。(和知町中央公民館 梅原美幸)

図書返却用ポスト設置

亀岡市立図書館

亀岡市立図書館前に、このほど休館日や開館時間外でも図書が返却できるよう返却用ポストが設置されました。休館日には百冊以上の返却があり、大変好評をえています。

図書紹介

図書館の自由と中立性

山下信康著(著者刊) 二、八〇〇円

図書館関係法規基準集

(社)日本図書館協会 一、九〇〇円

公共図書館職員論 八千代出版

久保輝巳著 二、五〇〇円

公共図書館原論(図書館学大系)

森 耕一著 二、四〇〇円

わたらの図書館 日本経済評論社

中野哲二著 一、四〇〇円

地方の図書館員―戦後の歩み

一、二〇〇円

岡山県青年図書館員研修会編・発行

◆事務局だより◆

このたび事務局長が異動しました。(九月一日付)

新 渡 辺 勲

(京都府立図書館中京分館長より)

旧 田 口 政 広

(向日市教委図書館準備室長へ) よろしく願います。